

(3) 歴史・文化芸術

第3章	歴史・文化芸術	第1節	特色ある地域文化の推進
施策1	文化芸術活動の振興		担当課係 生涯学習課社会教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●市民のニーズに応じた芸術鑑賞機会の充実	
・市民に対して芸術性の高い舞台鑑賞機会を安価で提供することを目的とした西いぶり定住自立圏文化事業等、およびだて歴史文化ミュージアムを活用した美術展覧会を実施	
主な取組内容	R1 劇団四季ミュージカル「エビータ」を伊達市で開催、ミュージアムで4つの美術展覧会を開催
	R2 西いぶり定住自立圏文化事業(登別市)はコロナで次年度に延期
	R3
	R4
	R5
●子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実	
・市内すべての市立学校の児童生徒に対し、巡回小劇場事業を通して舞台鑑賞機会の提供を図る	
主な取組内容	R1 市立学校の全児童生徒(引率含む2,567名)に対して、舞台鑑賞機会を提供
	R2 巡回小劇場はコロナで中止
	R3
	R4
	R5
●アートビレッジ構想に基づく、様々なレベルに合わせた人材育成事業の展開	
・絵画部門においては、就学前児童に対する「ペイントキッズ事業」から、本格的に画家を目指す「野田・永山塾」など事業を実施。音楽部門においては、室内楽マスタークラスを開催するなどして、様々なレベル向けの事業を実施	
主な取組内容	R1 様々なレベルに合わせたアートビレッジ事業(美術・音楽)を開催し、人材の育成を実施
	R2 現代写実絵画研究所絵画教室(6月～)及びペイントキッズ事業を開催、他のアートビレッジ事業は中止
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ 推計人口に対する市が主催・共催する文化芸術公演鑑賞者数の割合									
鑑賞人数	7,301人	17,145人	2,327人			7,470人	7,661人	c	
人口割合	21.11%	50.94%	7.01%			23.00%	25.00%		
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
C	新型コロナウイルス感染症の影響から、事業の大半が中止となり参加者数が大きく減となったため。
取組を進める上での課題と対応方針	
・巡回小劇場は市立学校の児童生徒数が上限で、西いぶり定住自立圏文化事業における舞台鑑賞事業は座席数が上限となることから、鑑賞人数増には限界がある。 ・目標達成のためには展示事業における集客数の増が求められるため、ミュージアムと連携し展示内容を検討する必要がある。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

細目名等	予算書上の			事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	款	項	目			
	9	4	3	芸術文化振興事業、アートビレッジ事業	19,838	
	9	4	3	芸術文化振興事業補助金	1,154	
9	4	6	特別展等開催事業(社会教育係分)	1,289		

第3章	歴史・文化芸術	第2節	歴史文化を活かしたまちづくりの推進	
施策1	歴史文化資源の活用		担当課係	だて歴史文化ミュージアム

1 推進方策および今年度の取組内容

●だて歴史文化ミュージアムの活用	
・だて歴史文化ミュージアムにおいて、歴史文化資源を活用した特別展等を開催することにより、市民や観光客がその価値を理解することで、さらなる文化資源の保護に繋げていく。	
主な取組内容	R1 特別展、企画展、1階スタジオでのパネル展、市民コレクション展示、各種イベント企画など
	R2 企画展、1階スタジオでのパネル展、市民コレクション展示、各種イベント企画など
	R3
	R4
	R5
●博学連携の取組	
・市内小・中学校等と密接に連携を取りながら、博物館の特質を生かした学習の場に活用する。	
主な取組内容	R1 市内小・中学校等の学習の場としての受け入れ
	R2 市内小・中学校等の学習の場としての受け入れ
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎だて歴史文化ミュージアム有料入館者数及び満足度									
有料入館者数	—	17,282人	6,117人			20,000人	20,000人	c	本館の有料入館者数
アンケート満足度	—	71.9%	82.3%			70.0%	90.0%	a	アンケート回答集計結果

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	新型コロナウイルス感染症拡大により臨時休館や制限付き開館により入館者数は減少したものの、常設展示替えや1・2階において連動企画などを展開したことにより、1日平均入館者数が昨年度平均62.4人/日を超える期間もあった他、アンケート満足度の向上にもつながった。
取組を進める上での課題と対応方針	
宮尾登美子記念アートホール廃止、実績を踏まえた目標値の変更と、「集い学び合える場」造成を目的とした多様な客層獲得のため、広報活動や展示内容、館内表示などを充実させる。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	9	4	6	だて歴史文化ミュージアム運営管理費	36,032	
	9	4	6	だて歴史文化ミュージアム特別展等開催経費	4,255	
	9	4	6	北海道博物館協会負担金	15	

第3章	歴史・文化芸術	第2節	歴史文化を活かしたまちづくりの推進
施策2	文化財の保護と適切な展示保管環境の維持	担当課係	生涯学習課文化財係

1 推進方策および今年度の取組内容

●指定文化財の保護対策と指定化の推進	
・世界文化遺産候補の史跡北金貝塚については、植樹による修景等を実施することで景観保全に努める。また、指定文化財については、市文化財保護条例に基づく適切な対応がとられるよう努めるとともに、特に文化的価値が高く、保護することが必要と認められる物件については、市文化財審議会に諮問し、市の文化財に指定する。	
主な 取組 内容	R1 指定記念物(イチヨウ・シナサワグルミ)の剪定等による維持管理の実施
	R2 指定記念物3件の剪定等による維持管理の実施。植樹修景による史跡北黄金貝塚の景観保全
	R3
	R4
	R5
●展示保管施設のモニタリングによる管理	
・埋蔵文化財を保管する噴火湾文化研究所収蔵庫では、担当職員が日常的に空調設備による温湿度設定のモニタリングを実施する。	
主な 取組 内容	R1 文化財収蔵施設内の温湿度等のモニタリングの実施
	R2 文化財収蔵施設のモニタリングによる管理
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎国・北海道・市による指定文化財の新規の指定件数									
指定件数	—	0件	0件			1件	3件	c	
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
C	国史跡指定を目指す有珠モシリ遺跡について、遺跡の分布範囲調査及び遺構調査を実施した。旧伊達邸宅跡については、古地図をだて歴史文化ミュージアムで展示するなど史跡化に相応しい価値の周知に努めている。いずれの候補案件についても史跡指定には至っておらず、引き続き調査が必要である。
取組を進める上での課題と対応方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助金等を活用した史跡指定に向けた測量調査・発掘調査のための計画策定が必要である。 ・史跡指定に向けて、引き続き文化庁等への働きかけを行う必要がある。 	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

細目名等	予算書上の			事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	款	項	目			
	9	4	4	指定文化財等維持管理費	1,553	
	9	4	4	埋蔵文化財収蔵庫維持管理費	264	
9	4	4	縄文遺跡群世界遺産登録推進経費	686		